

タクシーのご用命は0120-148-512登山ハイヤーへ

箱根観光情報新聞
2025夏号第一版
令和7年6月16日発行
企画制作
箱根観光情報研究会
協力
箱根モビリティサービス㈱
制作責任者:美馬 哲
発行部数:800部

無料

ご自由にお持ちください

箱根観光情報研究会

箱根観光情報新聞

芦ノ湖双胴遊覧船湖尻港運航再開

昨年発行の本紙二〇二四夏号第二版で紹介した双胴遊覧船「SORAKAZE」を運航している箱根遊覧船株式会社が今年三月に湖尻港までの運航再開を発表した。本紙編集長が以前から心待ちにしていた運航再開だ。

箱根遊覧船株式会社が運航する遊覧船「SORAKAZE」は、四便が湖尻港に寄港する。寄港するのは一九八六年に竣工した双胴遊覧船「十国丸」（定員七〇〇名

総トン数三三七トン 航速力一ノノット）だ。双胴船は通常の船の二隻分のデッキを確保できる上に、抜群の安定性と三六〇度の展望などの特徴を持つ船体だ。十国丸は一階と二階部分が客室、三階が遊歩甲板、四階が厨庫甲板となっ

ており、特に展望甲板からは文字通り三六〇度の展望が期待できる船だ。今回編集長は湖尻港から乗船、箱根園港・箱根関所



一時二〇分。編集長は早速船内の撮影を開始。外の風景が変わったことから船が動いていることに気が付く程、エンジン音が静かで滑らかな出航だったようだ。出航後は四階展望甲板に移動して移り変わる風景の撮影を開始。九頭龍神社の鳥居、駒ヶ岳、龍宮殿、山のホテル、平和の鳥居、編集長は大忙しだった様子。箱根園港から箱根関所跡港に向かう途中では海賊船同士が左右からやってきて交差するシーンや帰りの箱根園港では目の前で水陸両用バスが入水する迫力のシーンの撮影に成功。この二つのシーンは双胴遊覧船でないとお目に掛かれない貴重



なシーンだ。二時三〇分、予定通り湖尻港に入港。七〇分はあつという間だったらしい。なお、今回は七〇分周遊のコースだったが、一日フリー（乗降り自由）の乗船券も同額だ。芦ノ湖の湖畔には箱根園所、恩賜公園、箱根神社、成川美術館、九頭龍神社、箱根園、駒ヶ岳など人気の観光スポットが沢山ある。一日フリー乗船券を購入して、寄港する港周辺のスポットを周遊するのも楽しいだろう。また、愛犬家の方にお薦めの情報を一つ。箱根遊覧船の双胴遊覧船「SORAKAZE」、十国丸は三階、四階部分のみ、リードを付けた状態でのワンちゃんの歩行が出来るので、愛犬との船旅が楽しめるのだ。但し、条件があるので、ホームページで事前にご確認を。



箱根には有名な美術館がいくつもあるが海外からのお客様やご家族連れに特に人気の美術館がある。海外の方からは「The Hakone Open-Air Museum」と呼ばれている彫刻の森美術館。一九六九年、彫刻の発展に寄与することを目的に、当時の日本では前例がなかった彫刻の美術館として開館。七万平方メートルと言う広大な敷地に彫刻作品を展

示。正面の箱根の外輪山や背後の山の斜面を背景に自然と調和する彫刻作品を楽しむことができる。海外にも屋外の美術館が存在するが、広い敷地にポツポツと展示されているらしく、作品がまとまって展示されている美術館は珍しい。また、敷地内には本館以外にも屋内の展示館が設置されており、企画展やテーマを絞った作品を鑑賞できる。特にピカソ館

お子様も楽しめる彫刻の森美術館



が有名だ。
ユニークなのは色彩や造形にお子様も体感で感じることが出来る施設が用意されていることだ。大人の方の利用はNGだが、カラフルな色彩のネットでお子様も遊べる「ネットの森」や



写真提供：彫刻の森美術館



迷路になっている「星の庭」などはお子様連れのご家族にはお勧めだ。小さなお子様には無料のベビーカーの貸し出し、雨の日には無料の傘の用意(数量限定)もある。必要時は係の方にご相談を。
敷地の端には吊り橋や大きな鯉が泳ぐ池もあり、森の中の散策が楽しめる。
美術館の方から、雨の日は雨の日でしか見られない景色が楽しめる上に混雑していないのでお勧めであること、「星の庭」は大人でも楽しめるなどの情報をゲットした本紙編集長は改めて雨の日を訪問。

「雨に濡れてコントラストがはつきりした彫刻と背景の山の緑がとても綺麗だった。星の庭の迷路は一人でも充分楽しかった。」とコメントしている。なお、公園ではないので、走り回るのはNGとのことだ。

五月の連休明け、本紙編集長が強羅駅周辺をブラブラしていると知り合いの魚屋の女将さんから「紹介したい店がある。」と連れてこられたのがこのお店。うなぎ元長(もとちやう)。
今年四月二四日にオープンしたばかりのお店。
しかし、本紙は編集長が先に味を堪能するのが基本。そこで後日、こっそりうなぎ(上)をいただきます。ふっくらしていて美味し。



うなぎ元長

ポリウムも十分。四、二九〇円(税込)。日を改めて取材すること。
お会いしたのはこのお店のオーナー。この道三〇年のベテランの方。強羅が気に入ってこのお店を出したらしい。産地には拘らず、全国のうなぎの産地から大きさと脂の乗りの良いものを厳選して仕入れ、焼き方に拘って料理を提供しているとのこと。うなぎの他に和牛のすき焼きもメニューにある。うなぎと和牛すき焼き御前は一一、〇〇〇円



（税込み）だが、すき焼き単品にご飯と汁椀を付けてリーズナブルな値段で堪能することもできる。
編集長は取材後にこのすき焼きもいたいたらしい。勿論自腹。当人は「この値段でこの味が楽しめて大満足。」と語っている。
夜も営業しているのので、夕食にもお薦めのお店だ。



仙石原に通信教育の星様大学のキャンパスがある。廃校した中学校の施設を活用したキャンパスだ。そのキャンパスの中に食堂があることは本紙も把握していたが、学生でなくとも利用できるのではないかと噂があり、今年初め、本紙編集長が入店。お店の名前は緑と青空のふれあい食堂。中学校の雰囲気は漂う本館の館内を進み、階段



で二階に登ると教室だったところに食堂がある。日替り定食七〇〇〜一、〇〇〇円、かけそば五〇〇円などのメニューが並ぶ。編集長はカツカレーをチョイス。一、〇〇〇円。カツがパリパリしていてとても美味しかったらしい。料理長が手作りに拘った家庭の味を提供するお財布に優しいお店だ。(価格は税込み価格)



本紙ではお客様にできる限り正確に情報をお伝えするよう努力しておりますが、紙面の都合上、お店の場所や営業日、営業時間などの詳細をお伝え出来ない場合がございます。お手数をおかけしますが、訪問される前にお店や施設のホームページなどで営業日、営業時間などをご確認ください。よろしくお願いいたします。

なお、左記QRコードで過去の記事や画像、編集長の思い出などを紹介した本紙ホームページにアクセスできるのでお試しください。

お願い



箱根に観光に来たけれど「どこを見たらいいかわからない。」
「効率的に観光したいけれど・・・。」
とお悩みのあなた
箱根観光は登山ハイヤーがお薦めです。
今すぐ
0120-148-512(携帯OK)へ

